

さつまいもは飯南町にピッタリ!!

小才田の認定農業者

宇山智明さん
ちあき

水稲6町とさつまいも5反を耕作しています。

水稲は、7反が合鴨を使った有機・無農薬栽培です。昨年春に80羽入れましたが、外敵に襲われたため補充を繰り返し、最終的に150羽入れました。しかし、残ったのは11羽でした。中山間地域研究センターにも究明を依頼しましたが、正体はつかめずじまいです。

あい גם 農法は今年で13年目。固定客もつき、ふるさと納税の返礼品にもなっています。これ以上の拡大は難しいですが、望まれる方々のためにも続けて行きたいと思っています。

さつまいもは、農薬も化学肥

明日を拓く



楽しそうに農業について語る宇山さん

料も使わずに栽培しています。品種は「紅はるか」で、昨年までは3反でしたが、今年は耕作放棄された土地を預り5反に拡大します。

家内農業ですが、収穫は地区の方々に手伝っていたでいます。去年は3反で100万円程度になりました。販売先は産直と固定客が少しです。

出荷できないものも2〜3割ありますが、大きいものは給食に使っていただいています。加工品も考えていますが、ペーストやパウダーは価格が厳しいらしく、模索中です。

さつまいもは、比較的手が掛からず育て易いし、飯南町の気



自家製焼き芋

候と土質にも合っています。やまと芋も良いですが、さつまいもも支援してもらえれば生産者は助かります。

小才田は6戸の限界集落で、何とか耕作放棄地を作らないようにと苦心しています。この地区を盛り上げようと、秋には芋掘りイベントを開催し、東京・広島・松江などからも来られます。しめ縄館におられた協力隊員との縁で、東京から5名位来てもらったのが最初で、徐々に広がってきています。こうした催しを継続しつつ、新たな賑わい創出も検討しています。

「ありがとね」ハウスで稲の育苗準備を手伝う真剣な眼差しに、宇山さんは孫の可愛さが深まったことでしょう。限界集落といわれる小才田で4世代6人で暮らしておられる宇山さんご一家。地域を守るために家族が集い、集落が協力して農作業にあたられるそうです。「さつまいもは町の気候と土質にあっている」と意欲的に生産拡大に臨まれていることは素晴らしいことです。さつまいもが、交流人口増加の鍵となりますように。

編集後記

安倍首相の「休校要請」の一言で、全国の学校で大騒ぎになりました。

本町では、小学1・2年生は出校、3年生から中学生は休校という措置でしたが、小学1・2年生出校の理由が、「まだ幼いため、一人で家におくのは無理がある」「休ませると、(保護者が仕事を休み)病院業務ができなくなったり、施設での介護ができなくなる」との説明でした。

ここで英知を結集する必要があったと思います。何らかの体制をとり、保護者が安心して仕事に就けるような配慮が欲しかったと思うのは私だけでしょうか。

保護者が休むと困る企業では、独自で託児所を開設したところもありました。町が音頭をとって託児所を開設できるような町にならなければと思います。

小さな町ですから、隅々まで目の行き届く施策ができるものと信じています。

ともあれ、感染を防がなければなりません。手洗い・手指消毒の励行、普段からの健康管理(十分な睡眠とバランスの良い食事など)、適度な保湿・換気などでウイルスをもらわないよう気をつけましょう。町内での発生がないことを祈ります。

議会広報編集委員 伊藤 好晴